

成功させましょう「山形DC」

J R東日本山形駅長
佐藤 洋



今回、機会をいただき商工月報誌の「フロント・ライン 閑話独言」に掲載させていただくことになりました山形駅長の佐藤です。

最初に私の職歴を含めて自己紹介させていた

できます。私は現在56歳。国鉄そしてJRと通算36年が経過いたしました。職歴36年間で社内でも珍しく、30年余りを旅行部門に従事してきました。この間一番思い出に残るのは、国鉄からJRに移管するに当たって旅行部門の立ち上げプロジェクトに参画したことです。民間会社として、しかも旅行会社としてのスタート。右も左も分からない中、旅行業登録の準備、規定・規則の整備に取り組みました。そこで学んだことが今の自分自身にとって旅行業に関する基礎となり貴重な財産となりました。

それからは旅行商品企画業務に加わることとなるのですが、最初に会社として手掛けたのが今年年間100万人を送客する大ヒット商品に成長している「TYO」(東京往復の旅行商品)。私に大き

な力を与えてくれました。また、商品を創る過程において数多くの観光関連の皆さまと共に汗をかき、知恵を出し、発売状況に一喜一憂してきました。それが絆となって支えてくれています。

私は自分が今「山形駅長」であることに不思議な縁を感じています。来年の本番を前に県内全域で「山形デスティネーションキャンペーン(DC)・山形日和」のイベントが展開されておりますが、実は私は1988(昭和63)年と1992(平成4)年に行われた「紅花の山形路DC」に参画しているのです。紅花の山形路DCは、日本でも有数の観光先進地山形県が、県当局を中心に市町村、観光業者が同じ方向、同じ目的に向かって統一され、大成功裡に終了したことを覚えています。ですから山形のDCにかかわるのは3度目で、今回はより責任の重さを感じています。

さて、2014年のDCは前回開催から10年以上の歳月が経過しておりますし、私自身でいえば20年遠ざかっています。この10年から20年の間に日本の経済・社会が大きく変貌していることは誰しもが感じていることと思います。しかし、その中であって、山形駅長として着任しあらためて山形県をみると(県民の方々は当たり前と思っているでしょうが)山形県には、訪れる人が「素晴らしい」と思うものがたくさんあるということです。歴史・文化・食材そして何よりも「何人にも優しく温かみのある山形県人」そのものです。「綺麗な街」も印象的です。街にごみが無いということは、ひとり一人の意識が高いこと、「おもてなしの心」の表われです。

山形DCを迎えるに当たってJR山形駅としてなすべきことは何かを考えた時、こうした皆さまが大切に育んできたものを、しっかりと首都圏・仙台圏等に発信すること、1度山形を訪れたお客様から「また来るよ」と言われることだと思います。それが、旅の玄関口であるJR山形駅の役割であると肝に銘じる次第です。着任し8カ月になろうとしています。これからもっともっと山形県の良さを吸収、県民、山形市民の方々と縁を深めていきます。

DCまであと半年余り。ぜひ、多くのお客さまに山形の地に来ていただきましょう。東日本大震災の風評被害を払拭しましょう。成功させましょう。精一杯務めさせていただきます。